

## 速報:作家訪問を実施しました！ ミステリー作家 知念実希人先生

～この「図書館だより」では、東京都立成瀬高等学校図書館と図書委員会活動の様子をお届けします。～

◆2021年12月21日(火)の放課後、図書室にて図書委員会恒例の「作家訪問」をオンライン(Zoom)で実施しました。今回インタビューした作家さんは知念実希人先生です。作家訪問班の生徒を中心に6名が参加し、50分にわたりインタビューを行いました。このインタビュー記録は、委員会広報誌「木馬」第108号(Web版も発行予定)に掲載します。どうぞお楽しみに・・・。

【知念実希人先生プロフィール】1978年、沖縄県生まれ。東京都在住。東京慈恵会医科大学卒、日本内科学会認定医。2011年、第4回島田荘司選ばらのまち福山ミステリー文学新人賞を『レゾン・デートル』で受賞。12年、同作を改題、『誰がための刃』で作家デビュー。「天久鷹央」シリーズが人気を博し、15年『仮面病棟』が啓文堂文庫大賞を受賞、ベストセラーに。『崩れる脳を抱きしめて』『ひとつむぎの手』『ムゲンのi』で、18年、19年、20年本屋大賞連続ノミネート。『優しい死神の飼い方』『時限病棟』『リアルフェイス』『レフトハンド・ブラザーフッド』『誘拐遊戯』『十字架のカルテ』『傷痕のメッセージ』『真夜中のマリオネット』『硝子の塔の殺人』など著書多数。今もっとも多くの読者に支持される、最注目ミステリー作家。



＜ホワイトボードに映る知念先生を見つめながらインタビューする図書委員たち＞

参加生徒は事前準備をして臨み、「作家さんがどのように小説を書いているのかが具体的に分かってとても勉強になった」「知念先生の作品を読んで気になっていたことを直接聞けて良かった」と大満足の様子でした。  
(司書 池田)